



医療法人 惇慧会

外旭川病院だより

第6号

発行：2021年12月

当院の広報活動について / ホスピス長あいさつ / 部署紹介・医療相談室 / チーム医療・褥瘡ケアチーム

当院の広報活動について

広報委員長 船木 公行

昨年続き今年もコロナに明け暮れた一年でした。コロナ禍という長いトンネルから未だに抜け出せずにはいますがここにきてようやく、わずかに出口の光が見え始めてきました。しかし海外の感染状況や新たな変異株確認などで日本国内での感染再拡大が危惧されます。収束に向かう流れを後戻りさせないように水際対策と基本的な感染予防策の徹底が重要と思われま



コロナ禍の中で当院の広報活動も自粛を余儀なくされました。毎年10月に開催していた地域住民との交流を兼ねた地域講演会およびホスピス・緩和ケアの教育・啓発活動（ホスピス・緩和ケア市民公開講座、ホスピス研修会、Akita 地域緩和ケア勉強会）は昨年・今年と続けて中止とせざるを得ませんでした。今後の再開判断は感染状況次第となります。

一方、人の移動を伴わない活動はできており当院のホームページとホスピスの「さんぽみちブログ」は定期的に更新し、多数の方に当院の情報を提供しています。また診療実績についてはホームページへの掲載を続けています。

また、当広報誌「外旭川病院だより」とホスピス病棟の広報誌「さんぽみち」は、県内の医療機関向けに発行しており、ホームページでも閲覧可能です。



当院に限らずみなさまの施設でも同じような状況ではないでしょうか。行動制限や自粛が続く中で病院間の情報交換も減っていることからより多くの情報発信の必要性を感じ「外旭川病院だより」を年3回発行します。ぜひご覧いただきますようお願い申し上げます。

ホスピス医としてそばに居続ける



外旭川病院ホスピス長

まつ お なお き
松尾 直樹

日本緩和医療学会 緩和医療専門医

この度、10月からホスピス長を拝命いたしました。私がホスピス・緩和ケアに興味を持ち始めたのは、2000年頃です。当時、この領域について知識を得る方法はほとんどありませんでしたが、秋田県では、先代のホスピス長である嘉藤茂先生が県内の医療者を対象に緩和ケアの勉強会を開催しておりました。研修医の私は嘉藤先生にあこがれて、勉強会に参加するようになりました。当時の私は「痛みで苦しんでいる患者さんを何とかしたい」という一心でホスピス・緩和ケアの世界に飛び込みました。勉強会で教わった知識を実践していくと、今まで苦しんでいた患者さんの症状が次々と緩和されていきました。研修医時代に症状が緩和され、笑顔になった患者さんのことは今でも忘れません。しかし、私はまもなく壁にぶつかります。前任地のホスピスで働いていた時には、身体の痛みは緩和されていたにも関わらず、苦しんでいる患者さんが多くいたのです。患者さんは、「なんで私だけが苦

しまなければならないのか」「こんな状態で生きているのは意味があるのか」と私に問いかけました。診察のたびに、何度も繰り返すのです。私には答える術はありません。無力感を感じるだけです。ただ、それでも日々、そのような患者さんのそばに居続けると、何人かの患者さんは「会えてよかったです」と話されます。何の役にも立っていない自分でも、いづらかでも患者さんと関係性を築き、患者さんにとって必要な存在だったのかと気づかされた時、この上ない喜びを感じることができたのでした。こうした患者さんの苦しみはスピリチュアルペインと呼ばれるものですが、こういった苦しみに対して、解決することは難しくてもそばに居続けることが、ホスピスケアの神髄であると思っています。「身体症状の緩和」と「生きる意味を支えること」これらを両輪として、これからもホスピス医の道を歩んでいきたいと思えます。皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



部署 紹介

医療相談室

当院の医療相談室・地域医療連携室には、社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員等の資格を持った4名の医療相談員（医療ソーシャルワーカー）が在籍しております。

患者さんが安心して療養していただけるよう、入院前から退院後まで様々な心配ごとや不安についてご相談をお受けしております。



よくあるご相談

- 外旭川病院の療養病棟とホスピス病棟の概要を知りたい。
- 申し込みから入院するまでの手続きの流れを教えてください。
- 入院費について教えてください。
- 家族が県外にいますので、身の回りのお世話ができませんが入院に支障はあるか。
- 退院が可能になった場合、自宅や施設で安心して過ごせるよう支援してもらえるか。
- 介護保険の申請や施設への申し込み方法を教えてください。
- 身体障害者手帳等の各種制度の利用方法や申請の方法を教えてください。

私たち医療相談員は、医師、看護師、管理栄養士、リハビリ等の院内スタッフや、地域の医療機関や福祉機関と連携をし、患者さんやご家族のさまざまな不安や問題を取り除けるようお手伝いをさせていただきます。

相談内容については秘密を厳守し、相談費用は一切いたしません。

十分な相談時間を確保するためにも、事前にお電話でご予約いただくことをお勧めします。下記まで、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ

外旭川病院 医療相談室

〒010-0802 秋田市外旭川字三後田 142

☎018(868)5511 FAX018(868)5577

月～金曜日10時～16時（土日祝除く）

褥瘡ゼロを目指して／

じょくそう

褥瘡ケアチームの紹介

チームで患者さんに寄り添ったケアを実践しています！！



褥瘡(じょくそう)ってなに？

褥瘡とは一般的に「床ずれ」とも言われます。これは一定の部位に力が加わることによって生じる皮膚損傷の総称です。褥瘡は動きや活動が低下した方、皮膚の摩擦・ずれ・圧迫といった要因や栄養状態の低下等、複雑に絡み合って発症します。

チームの構成

皮膚科医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、薬剤師、医事職員のメンバーで構成されています。

チームの目的

院内での褥瘡対策を検討し、褥瘡の予防、治癒促進を目的としています。

チームの活動

1 褥瘡回診

病棟で発生、あるいは持ち込まれた褥瘡について、皮膚科医師、看護師、理学療法士、管理栄養士が定期的に褥瘡回診をします。そこでは、皮膚の状態だけでなく、患者さんの具体的な姿勢の取り方、ケアの方法、栄養について、チームで話し合います。

2 体圧分散マットレスの整備

褥瘡予防と治療をするには、体の各部分にかかる圧力を下げる必要があります。当院では、241床すべてに、褥瘡予防に配慮したマットレスを使用し、予防に努めています。

3 NST(栄養サポートチーム)との連携

褥瘡予防と治療には患者さんの栄養状態と密なかかわりがあります。栄養状態を良くするために、褥瘡回診への栄養士の参加と栄養サポートチームと連携しています。

医療法人 惇慧会

外旭川病院



〒010-0802 秋田市外旭川字三後田 142

TEL 018-868-5511 FAX 018-868-5577

《Web》<https://jkk-sotohp.or.jp/sotohp/>

■ 病床数 241床(療養病棟 207床、緩和ケア病棟 34床)

■ 診療科目 / 内科、皮膚科、リハビリテーション科

